



入学おめでとうございます

新入生の皆さん、秋田大学教育文化学部・教育学研究科への入学、おめでとうございます。本日にここに若さ溢れる新入生を新しい仲間として迎えることができましたこと、教育文化学部・教育学研究科を代表して、大いに歓迎いたします。特にここ数年来続く、新型コロナウイルスの影響の中での入学試験という厳しい試練を乗り越えて見事入学されましたこと、心より敬服いたします。皆さんが、秋田大学教育文化学部・教育学研究科で新しい生活を始めるにあたり、学部長・研究科長として、応援メッセージを贈りたいと思います。

皆さんが入学された教育文化学部・教育学研究科は、明治6年(1873年)に設立された秋田県伝習学校が原点となっています。その後に幾度かの改称を経て、昭和24年(1949年)に創立された秋田大学の学芸学部として、大学の仲間入りを果たしています。なお大学院教育学研究科が創設されたのは、平成元年(1989年)になります。このように皆さんは歴史・伝統ある学部・研究科に入学されたわけですが、そのことを踏まえて、私から3つのお願いがあります。

最初をお願いしたいのが、大学・大学院での過ごし方です。長年大学教員をやっていると、「大学時代（または大学院時代）にやっておいたほうが良いこと、経験しておいたほうが良いことは何ですか？」という質問を受けることが度々あります。そんな時に決まって答えるのが、「まずは大学（大学院）で提供される授業を理解することから、始めてください。」です。もちろんサークル活動やアルバイトなど、学生として経験しておいたほうが良いことが多々あることはよく理解しています。しかし社会人になって思い知るのが、集中的に学習する時間を持てる時期は学生時代まで、ということです。深い学識と高い研究力をベースとする大学・大学院の授業内容は、学習指導要領に従った高等学校までの授業とは相当違ったものであり、皆さんの人生の糧になるものです。知識を得ることを、思う存分に楽しんでください。そしてそのことを通して、より豊かな心と冷静な判断力を併せ持つ人物となってください。

教育文化学部長・教育学研究科長 上田晴彦

次にお願したいことは、物事をある面からのみ見て判断することから、徐々に離れてほしいということです。実は私を含めて多くの人は、小学校から大学入学までの間、ペーパー試験の結果という一面のみで、判定されてきました。もちろんペーパー試験の結果は、ある種の優秀さを表現していることは間違いありませんし、秋田大学でもそのことを踏まえて入学試験をおこなっています。しかし社会に出てつくづく思うのは、年をとればとるほどその種の優秀さとは違った能力、つまりコミュニケーション力や（もっとあいまいですが）人間力といったものが大きく効いてくるということです。「変化の激しい現代において、キャリアの8割は偶然の出来事によって形成される」という有名なプラント・ハップンスタンス理論からわかるように、偶然性の影響も極めて大きいです。大学以後はこれまでの常識を捨てて物事を多面的にみる力を養ってほしいと切に願っています。

最後にお願したいことは、やや説教じみえています。新型コロナウイルスの影響下で様々なご不便を学生の皆さんにはおかけしていること、とても心苦しく思います。しかしそのような状況下においても決められたルールをきちんと守ることは、人としての常識です。今しばらくは我慢の日々が続きますが、いずれ事態は好転するでしょう。そのことを胸に秘め、健康に気を付けながら、日々の生活を送ってください。

伝統ある秋田大学での皆さんの学生生活が、実り多く充実したものであることを願いながら、私からの祝辞といたします。本日は本当におめでとうございます。



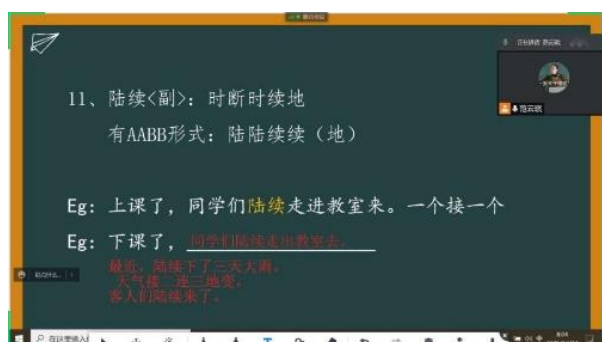
3/22 卒業式を挙行



黒龍江大学へのオンライン留学を経て

オンラインで留学しようと思ったきっかけ

私は去年の9月から12月の4ヶ月間、中国・黒龍江省にある黒龍江大学へオンライン留学をしました。私はかねてより留学に興味があり、本来は大学2年次に現地へ渡航し語学力を磨きたいと考えていました。しかし、昨今のコロナウイルスの情勢により、やむを得ず1年後に延期しましたが、状況が好転する兆しがなかったことから、オンラインでの留学を決断しました。



留学を通して困難だったことと楽しかったこと

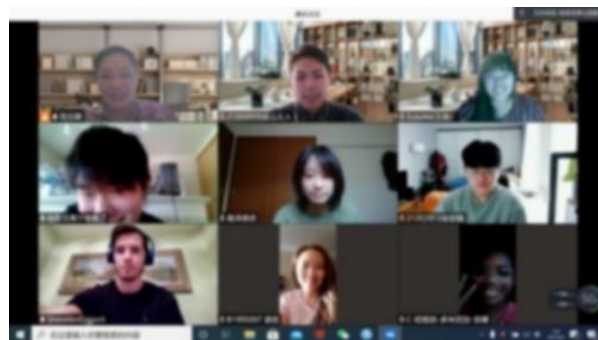
オンラインでの留学は秋田大学の交換留学において前例がなく、準備の段階から苦労の連続でした。中国側の大学との円滑な情報伝達が難しく、必要な書類を揃えることや授業の時間割が学期開始直前までわからないなど、不安に感じることも多々ありました。また、授業が始まってからも、毎朝8時（水曜は7時半）から平日毎日授業があり、典型的な夜型人間だった私は、生活習慣を朝型にシフトすることにも苦勞しました。しかしながら、毎日の授業は先生方の飽きさせない工夫が凝らされており、非常に楽しかったことを覚えています。私のクラスは8名の留学生から構成されており、韓国、タイなどのアジア圏からドミニカ共和国の学生まで、世界各国のさまざまな地域の留学生が所属していました。授業では自分の国の文化や観光名所などをプレゼンテーションで発表する機会もあり、そこで中国だけでなくさまざまな国の情報を吸収するきっかけにもなりました。

留学期間中に意識して取り組んだこと

私が留学生活中に特に意識していたことは、勉強の効率化です。授業では、毎回膨大な量の宿題を課されました。留学当初は、1日分の宿題を完成させるのに5~8時間ほど時間を要し、睡眠不足でさらに効率が落ちるという悪循環に陥っていました。しかし、生活のルーティンを確立することが重要だと感じ、睡眠時間を確保するなど日々の行

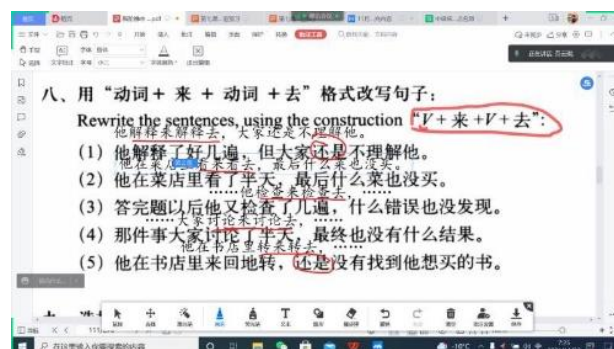
国際文化コース4年次 畠沢美優

動を習慣化することを心掛けました。また、一つの宿題にこだわりすぎないことも意識しました。先生方は皆優しく、答え合わせで間違っただとしても、完全に理解するまで手を変え品を変え例文を作って教えてください、最後には「明白了吗？（わかりましたか？）」と問いかけてくださるので安心して授業を受けることができました。



最後に

私が経験したオンライン留学では、困難だったこともたくさんありましたが、中国語を勉強する仲間と出会い、一緒に勉強したことが今後の私の人生の糧になると感じています。いつか中国に渡航して、仲間に出会えることを楽しみにしています。



**みなさんもオンライン留学に積極的に挑戦してください。
学部では受講料などの補助も行っています。**

3/2 地域連携懇談会フォーラムを開催

3月2日(水) 15:30～17:20 に標記の会を Zoom にて開催しました。48 名ほどの参加があり、秋田県中小企業家同友会や北都銀行、大仙市、能代市、にかほ市、横手市などからもご参加いただきました。

林良雄地域連携委員長から、教育文化学部における地域連携活動の取組みについての説明が行われた後、パイロットリサーチプロジェクトの成果報告が以下の3本行われました。

①にかほ市 地域経営に関する研究

白木智昭准教授

②大仙市 発酵文化を中心とした市の魅力発信

益満 環准教授、3 年次学生進藤佳音

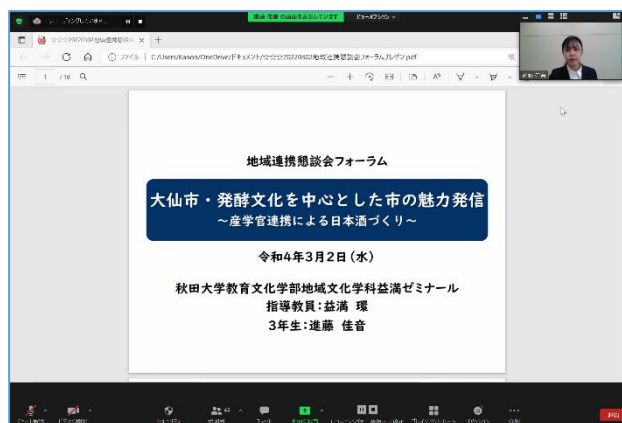
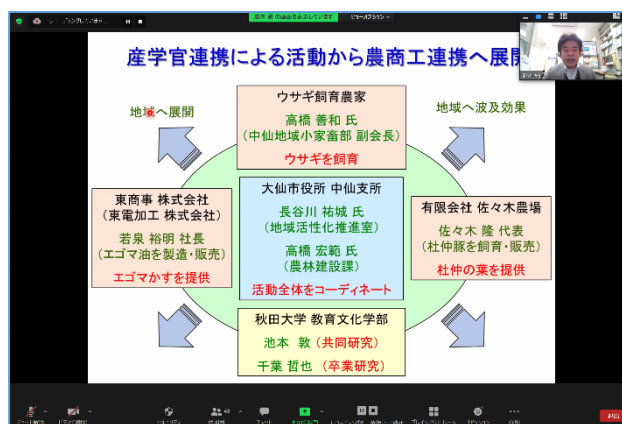
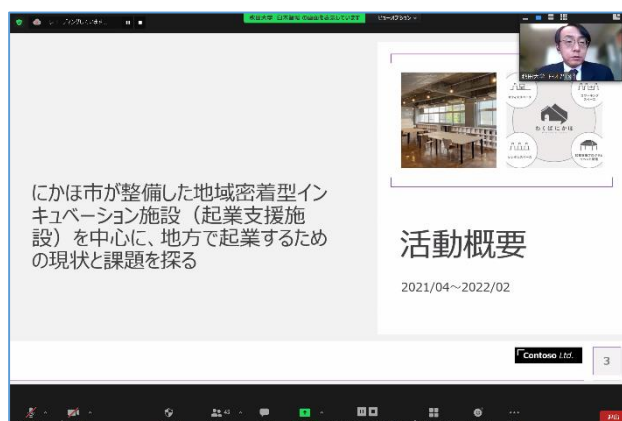
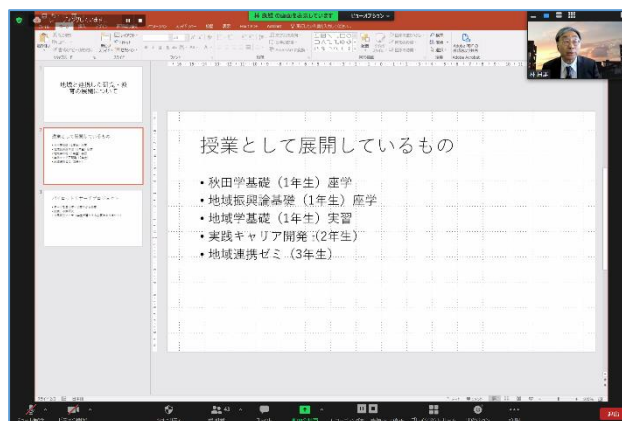
③大仙市 日本白色種秋田改良種（中仙ジャンボウさぎ）の食用肉としての特性調査

池本 敦教授

秋田大学教育文化学部では、2010 年度から、秋田県内の自治体・教育委員会、民間企業、NPO 法人等との連携・協力による地域教育への貢献および研究成果の地域社会への還元を目指し、卒業論文等のテーマを自治体等から公募する事業を開始し、今年度で 12 年目を迎えました。2018 年度からはパイロットリサーチプロジェクト—学生による調査・実験テーマの公募—と銘打っています。略して「PRプロジェクト」です。この 12 年間のうちでは、地域の協力を得ながら学生が指導教員のもと卒業研究として取り組むものもあれば、テーマに関連する授業において、受講した学生が教員とともに研究に取り組むものもあり、いずれも、学生と教員とが協働して多彩な研究を展開してきました。加えて、教員が主体となって地域の企業、自治体と共同研究を行うものもあります。

2019 年度末頃から引き続いて、新型コロナウイルスの感染拡大が世界的に問題となっています。この事態はグローバル化の負の側面とともに、地球温暖化による気候変動、少子高齢化と人口減少社会の到来、ICT、AI、IoT 時代の到来などとともに、不透明な時代を象徴するものと言えます。不透明であるほど、深刻であるほど、誤った情報に流され、疑心暗鬼やパニックが生じやすくなります。このような状況の中で、大学が果たすべき役割は大きいように思います。地域が抱える課題と解決策を析出・分析する研究の面での貢献、地域の有為な人材を育成する教育の面での貢献、この二つを科学的、文化的、批判的視点から同時に行えることが大学の強みです。

https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_theme.html



3/2 第13回令和3年度技術部研修会を開催

技術部では、技術系職員の技能向上と知識・技術共有のため毎年研修会を開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン形式（Zoom）で令和4年3月2日（月）午後に技術発表の研修を行いました。

はじめに、佐藤修司技術部長よりご挨拶いただき、新学部設置・学部改組の必要性や教育研究内容、教育文化学部の今後の方向性、現在の教員就職率や小・中学校採用試験受験者数・受験倍率、秋田県教員需要動向などについて紹介していただきました。

引き続き、技術系職員による技術・実践発表を次の通り行いました。

<教育関係>

○「オンラインフォーラム運営ノウハウの蓄積と実践」小林到（基礎技術系技術長）

コロナ禍でビデオ会議システムによるオンラインフォーラムが一般化した、これまでの運営経験から蓄積したノウハウを、実践例を挙げながら紹介した。

○「3Dプリンターによる立体周期表の製作」若杉圭（応用技術系技術専門職員）

元素の理解を深めるための教材として立体的な形状の周期表を製作した。この周期表は3Dプリンターで製作し、原子半径を球体の大きさで表現した。また、元素を自由に並べ替えて、楽しみながら学習できるようにした。

○「附属中学校におけるICT支援員業務」山下清次（基礎技術系技術専門職員）

GIGAスクール構想により1人1台端末、高速通信ネットワーク環境などが整備されつつあり、学校現場はそれらを用いて様々な実践がされている。技術部では令和3年度後期より附属学校園にてICT機器等の保守管理支援を行う為、支援員として業務を行っている。

<社会貢献関係>

○「テクノフェスタ動画編集協力者向け動画編集講座の開催について」成田堅悦（総括技術長）

総合技術部主催のテクノフェスタが昨年に続き動画配信となったため動画編集協力者を募り動画編集講座を実施した。各部局から提出された6本の動画のダイジェスト版作成を通して動画編集を体得してもらった。

○「反射屈折望遠鏡 Vixen VMC200L の設置と運用について」毛利春治（応用技術系技術長）

令和3年度に天文台に設置された反射屈折望遠鏡 Vixen VMC200L の特徴や運用の基本構成・観察・Zoom中継・写真撮影の方法について、撮影された月面の写真や動画を提示しながら紹介した。

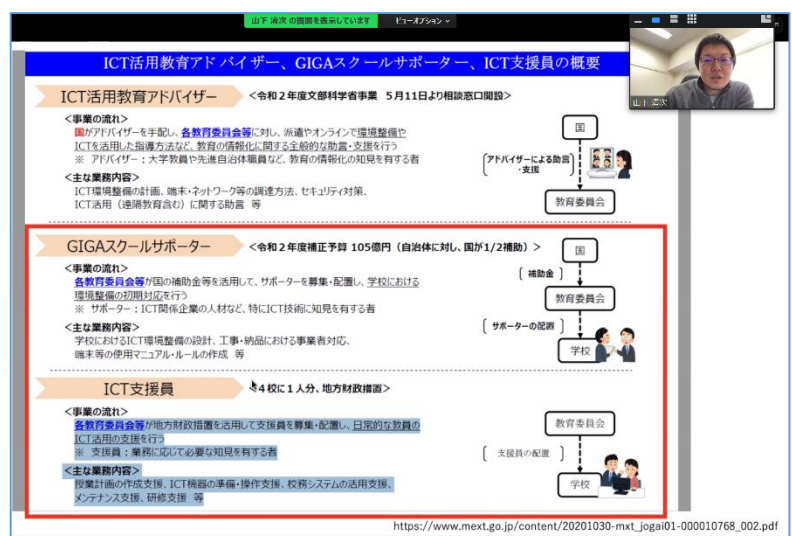
○「第32回オリンピック競技大会（2020/東京）水泳・マラソンスイミング競技レポート」綿谷健佑（基礎技術系技術職員）

オリンピック2020東京大会にスポーツアシスタントとして派遣された経験から、マラソンスイミング競技の概要や会場の様子、スポーツアシスタントとしての活動内容、オリンピックにおける感染症対策の状況について報告した。

研修は、本学部技術部の技術系職員だけではなく、学部の教員、他部局の技術系職員も出席いただき、意見交換も活発に行われました。

今年度は、コロナの影響もあり、実習の研修ができなかったのが残念ですが、後期からは3名の技術系職員が附属小中学校のICT支援で行っておりますので、来年度はICT支援業務で得られたノウハウを研修テーマとして実習を実施できればと考えております。今後も技術部として各技術系職員が持つ専門技能の向上に努めつつ、全学と学部状況・将来を理解しながら、技能の幅の拡大も目指していききたいと思います。

【技術部研修担当】



附属学校園における ICT 支援業務

GIGA スクール構想により 1 人 1 台端末、高速大容量の通信ネットワークなどが整備され、学校現場ではそれらを用いて様々な実践がされています。

GIGA スクール構想についての説明は長文となる為、省略させていただき附属学校園での ICT 支援員業務について報告します。

教育文化学部技術部では令和 3 年度下半期より附属学校園にて ICT 機器等の保守・管理及び教育支援を行う為、ICT 支援員として業務を行っている。この業務を請け負う事になった背景は、附属学校園の GIGA スクールサポーター兼 ICT 支援員の業務委託期間の終了である。

その業務内容はサーバーや NAS、ルーターやハブの管理、生徒用タブレットおよび保管庫の整備・保守、デジタル機器、パーツ、コード等の管理、教員用機器の不具合の解決、授業のサポート、教職員への研修などであった。これらの業務を附属学校園の教員が授業や日常業務と兼務していくにはスキルの的にも時間的にも厳しく困難である。その為、秋田大学教育文化学部附属学校 ICT 教育実施委員会より技術部に支援依頼があった。技術系職員間の日程調整等を行い業務として請け負うこととした。

現在、週 5 日間（月～金）附属学校園で ICT 支援員として技術系職員が派遣され業務を行っている。小学校は火・水・金に成田・綿谷が、中学校は月・木に山下、綿谷が担当している。特別支援学校及び幼稚園についてはトラブル発生時とイベント開催時に対応することとなっている。

山下は毎週木曜日に附属中学校で業務を行っている。主な業務は、教員用・生徒用タブレットの整備・管理、教員用ノートパソコンの整備、授業時のトラブル対応（学内 Wi-Fi に接続できない、指定の web ページにアクセスできない等）、Microsoft365 使用における教員・生徒用アカウントの設定・保守・管理、Zoom 使用時における機材設置支援等、Microsoft 365 アプリの授業での使用方法についての対応、その他 ICT 機器に関する相談への対応等である（その他にも多種多様な相談がある）。

今年度下半期、ICT 支援員業務を行ってきたの感想だが、附属中学校の場合、トラブルや相談等は突発的に起きることがほとんどである。教員が授業や学校事務作業などの傍ら、ICT 支援業務も行うのは時間的に厳しい。仮にできたとしても授業準備や教材研究に充てる時間を使うことになり、様々な影響が出るのは明白であると感じた。その

為、トラブルが起きない時であっても、いつでも対応できるというサポート体制を構築することが重要であると感じた。また、教員からの相談に対し、自身の知識・技能から可能な限り迅速かつ最適な回答や対応をする必要があると感じ、その為には自身の知識・技能を日々向上させていく必要があると強く感じた。

本業務を行うにあたり、自身で GIGA スクール構想における Microsoft365 やタブレット等の様々な活用事例から情報収集を行ってきた。ある学校では Microsoft365 を活用してアプリを手作りし、作業の自動化や作業時間を削減する「校務 DX（デジタルトランスフォーメーション）」を果たし、校務改善、働き方改善、生徒との探究学習時間創出、そのすべてを実現している学校もあった。

新型コロナウイルス感染症が落ち着き、他県との往来が可能になった際には、様々な学校に視察に行きそこで得た情報を附属学校園に還元することができるのではと考えている。

綿谷は毎週月曜日に中学校、水・金に小学校で業務を行っている。附属小学校では、中学校と同様の業務を行っているが、児童へのタブレット操作支援が役割の中心となっている。タブレットの基本操作の他、Teams を中心とした Microsoft365 の機能や Scratch といったアプリケーションの使い方についてもサポートを行っている。

学年によりタブレットの活用方法は異なるが、タイピングやカメラ等の基本的な機器の扱いに加え、アプリケーションを活用した学習結果や意見、感想の共有、プレゼンテーション資料の作成と発表、意見集約等、様々な場面でタブレットの活用が見られ、児童の成長スピードに驚く毎日である。自身の知識・技能をブラッシュアップしていかなければならないと強く感じている。

この他にも、プログラミング教育の必修化により、社会的にも小学校における ICT の活用が注目されている。プログラミング教育は、必ずしも ICT 環境を必要とするものではないが、ICT 活用への期待も大きいことから、引き続き、この分野においても情報収集を行い、知識・技能を向上させるとともに万全のサポートができるように備えていきたい。

【文責：山下清次、綿谷健佑】

3/9 FD・SD フォーラム「本学部の教育における ICT 活用および DX に向けた取り組みについて」開催報告

3月9日16:10よりFD・SDフォーラムを開催しました。このフォーラムは昨年に続きコロナ禍でのオンライン開催となりました。今年のテーマは、教育におけるICT活用とDXとしました。今年度の1年生からパソコンの必修化が始まっており、授業等の中でどのようにしてICT活用のスキルを身に付けてもらうかが重要な課題となっています。また、来年度以降に予定されている新学部設置への動きの中でも、データサイエンス教育の全学的な展開が予想され、教育文化学部におけるその位置づけについても議論して行く必要があると考えられます。そのような問題意識の下で今回は、現在学部で開講されている授業の内、ICTに関連する授業科目について、その内容を紹介してもらい、問題意識と情報の共有を図ることを目指しました。

2021年度学部FD・SDフォーラム

2022年3月9日（水）16:10～Zoom開催

『本学部の教育におけるICT活用およびDXに向けた取り組みについて』

- 1) あいさつ 副学部長 武田 篤 先生
- 2) 趣旨説明・アンケート報告
「数理・データサイエンス・AI教育シンポジウム」
(令和3年12月23日開催) の内容紹介 (林 正彦)
- 3) 本学部におけるICT教育の取り組み
・ 林 良雄 先生
・ 加藤 慎一 先生
・ 藤井 慶博 先生
- 4) ディスカッション



最初に武田篤副学部長から、このフォーラムの意義についてご説明頂きました。

続いて筆者から、全国的なデータサイエンス教育の流れについて、東北創成国立大学アライアンス主催で12月23日に開催された「数理・データサイエンス・AI教育シンポジウム」の内容を参照しながら説明を行いました。東北創成国立大学アライアンスは東北地区7国立大学と新潟大学によって構成される、数理・データサイエンス・AI教育に関する教育連携を目指す集まりです。

(<https://tohokusei-ua.jp/index.html> を参照) 特に、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)」については、やや詳しくご説明させて頂きました。

また、このフォーラム開催にむけて、学部でのICT活用の現状把握のために、教員のみなさんにアンケートを実施しましたので、その結果についても紹介しました。授業におけるパソコンの利用

FD推進委員会委員長 林 正彦
については1年生で33%、2年生以上で54%の方が行っていると回答されており、一定程度進んでいることが分かりました。また、ICTを用いた授業改善への意向も強いこと、学生に対するSNS等の使用法についての指導の必要性についても高い認識があること等も分かりました。ただし、現状では授業科目毎に個別にICTへの対応が行われており、科目間の情報共有と連携が今後の課題となりそうです。

続いて、林良雄先生から今年度から開講されている「データサイエンス入門」についてご紹介頂きました。地域文化学科におけるデータサイエンス系科目開講の現状について概観された後、データサイエンス入門の内容について詳しくご紹介頂きました。秋田県内の企業・県庁等、幅広い範囲から講師を招き、仮想現実や5G通信など最先端の話題が提供されており、大変充実した内容となっていることが分かりました。さらに、講義の後半ではscratch, micro:bit, ロボットカーを用いたプログラミング演習を実践されているとのことでしたが、これは学校教育課程でも最近プログラミング教育の入門として行っているものと共通の内容である点も興味深いと思いました。

次に、加藤慎一先生から県内の小・中・高等学校、特別支援学校と連携した算数・数学教育におけるICT活用と学部授業での実践についてご紹介頂きました。特に印象に残ったのは小・中・高・特支といった学校現場におけるICTの活用はGIGAスクール構想とも相まって、大学よりもむしろ進んでいる面も多いということでした。これから教職を目指す学生の指導においてはその点も十分考慮する必要があると感じました。また、「GeoGebra」というソフトを用いた幾何の証明問題の解法を通して、生徒が図形を動的に捉えられるようになるための授業について詳細にご報告頂きました。





最後に、藤井慶博先生から特別支援教育における ICT の活用についてご紹介頂きました。特に肢体不自由児に対しては適切な補助具や補助的手段を工夫することによって ICT 機器を使うことで教育効果を高められること、また、病弱児に対しては仮想現実等を用いることで体験的な学習における効果を高められることなどが分かりました。アイトラッカーを用いた視線入力、分身ロボット（アバター）を用いた学習への参加、VR ゴーグル等について利用の状況についてもお報告頂きました。また、「分身ロボットカフェ」という難病や障害な

どで外出困難な人が分身ロボットを使って働く試みについてもお紹介頂き、特別支援教育における ICT 活用の可能性の大きさが実感できたと思います。

当日は最大 85 名の方々に参加して頂きました。開催時期が年度末になってしまったこと、夕方からの開催で時間的余裕がなく活発な質疑応答とは行かなかったことや時間が延びてしまったことは反省点だったと思います。一方で、途中チャットを通じて情報提供を頂くこともあり、zoom を使ったフォーラム開催の利点も見えてきました。お忙しい時期にご参加頂いた皆さん、特に情報提供を頂いた 3 名の先生方には心より感謝申し上げます。

なお、新しい試みとして本フォーラムの動画や資料を、教職員を対象とした WebClass「学部 FD」のページに掲載しました。このフォーラム自体の ICT 活用についても引き続き検討して行けると良いのではないかと思います。

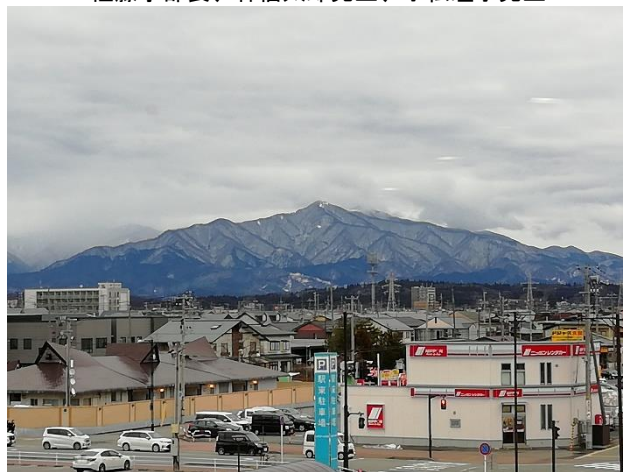


3/22 県立武道館での卒業式



3/31 退職辞令交付式：

左から為我井寿一先生、林崎勝先生、佐々木和貴先生、佐藤学部長、林信太郎先生、小松睦子先生



3/19 秋田駅から眺める太平山

2022 年 3 月で退任される先生方からのメッセージ

退任にあたって

教職実践専攻 原 義彦

令和 4 年 3 月末をもって秋田大学を退職するにあたり、ここに、一言、ご挨拶を申し述べる機会をいただきました。

私が本学部に着任したのは、平成 16 年 4 月、国立大学法人化がスタートした時で、これからこの 3 月末で 18 年間、勤務させていただきました。年齢で言えば、30 代の後半で着任し、50 代半ばで離任ということになります。今後も含めて大学での教育研究生活を通してみれば、最も充実した年代をこの秋田大学で過ごさせていただいたのではないかと思います。

その一つを申し上げますと、私の専門領域である生涯学習や社会教育について、1970 年代に全国に先駆けて生涯教育を推進した秋田県に身を置き、じかにその歴史を辿っていくと、さまざまなことが現在の教育や学習につながっていることがわかりました。私の非力さゆえに、決して、緻密な分析ができたわけではありませんが、調べれば調べるほどに新たな発見がありました。

学部、大学院では、社会教育主事、司書、学芸員などの資格に関わる科目や、教職大学院における実践的な教育研究に関わらせていただきました。また、令和 3 年 3 月までの 3 年間は、私にとってはほとんど未知の世界でした附属中学校の勤務も経験させていただきました。こうして振り返りますと、多くの先生方、事務職員、技術職員の皆様、そして素晴らしい学生たちに恵まれ、支えていただいた 18 年でした。この場をお借りして、心より感謝とお礼を申し上げたいと思います。

最後になりますが、皆様方のご健勝とご多幸を、また、教育文化学部ならびに大学院教育学研究科の更なる充実と発展を祈念して、退任にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。誠にありがとうございました。

秋田大学教育文化学部での 8 年間をふり返って

こども発達コース 小池 孝範

秋田大学教育文化学部には、平成 26 (2014) 年 4 月から 8 年間在職いたしました。着任した平成 26 年は、それまでの 4 課程から、現在の 1 課程 1 学科に改組された年でした。私は、教育哲学、道德教育論を専門としており、授業も教育の原理に関する科目(人間形成論等)、道德教育に関する科目を中心に担当いたしました。そこで、いくつかの出来事をもとに、この 8 年間を振り返ってみたいと思います。

まず、この間の大きな出来事として「道德の教科化」があげられます。「教科化」をめぐる賛否様々な意見がありましたが、教員を目指す学生と、また、学校に勤務する先生方と様々な意見交換ができたことは大変貴重な経験でした。残念なことに「教科化」以降、そのあり方をめぐる議論は急激に熱が冷めてきたようにも感じます。賛否いずれの立場であっても、その成果や課題を検証していくことが重要だと思います。「考え、議論する道德」を目指して導入された「道德科」は、とりわけ「道德的」であることが求められるコロナ禍の下では、「道德教育」のあり方、ひいては「道德的」であることの意味や意義について「考え、議論」し続けることが重要だと思います。

最後の 2 年間の、新型コロナウイルスの感染拡大も大きな出来事でした。日常生活での行動制限を含む行動の変容はもとより、オンラインでの授業や学会、対面の場合でも間隔を大きくあけての授業等、研究・教育の場でも様々な対応が求められました。そうした中でも曲がりなりにも継続して授業を提供できたことは、結果的にはありませんが、ICT を活用した授業の必要性や重要性を感じることとなりました。同時に、人と人が直接向かい合っていることが、「『人格形成』や『人間力の成長』」を含む、有形無形の様々な点で重要であることを改めて実感する契機ともなりました。また、それにもまして、様々な制約の中での学生生活で、私たち以上に不自由に感じることも多い状況にもかかわらず、こうした状況に柔軟に対応し、学び続けてくれた学生諸子には頭が下がります。

8 年間の秋田大学での生活が多くの方々を支えられていたことを、今、改めて実感し、感謝の念に堪えません。どうもありがとうございました。末筆ながら、秋田大学教育文化学部の益々の御発展を祈念申し上げます。



左から林崎先生、原先生、小池先生、小松先生
阿部昇先生、山口祥司先生、渡辺英夫先生、
佐々木和貴先生もご退職となりました。
皆様のご多幸とご健勝を祈念いたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

【全国】

- 2/6：全国の1日の新規感染者の週平均が90000人を超えて90652人となる。
- 2/12：全国の1日の新規感染者の週平均が90000人を切って87943人となる。最高は2/11の93252人。
- 2/22：全国の1日の新規感染者の週平均が80000人を切って78352人となる。
- 2/25：全国の1日の新規感染者の週平均が70000人を切って68828人となる。
- 3/1：水際対策が緩和され、観光を除く外国人の新規入国が昨年11月以来3か月ぶりに再開。1日あたりの入国者数の制限は3500人から5000人へ引き上げ。ビジネス目的などの3か月以下の短期滞在者に加え、留学生や技能実習生などの長期滞在者は、受け入れ先の企業や大学などが事前にオンラインで申請し、ビザの審査を終えれば、入国可能。入国後、原則7日間の宿泊施設や自宅などでの待機は3日目の検査で陰性が確認されれば、その後は不要となり、3回目のワクチン接種を終え、オミクロン株の広がりが見られない地域からの入国者は待機措置が一切免除される。
- ワクチンの3回目接種の全人口に占める割合が職域接種も含めて20%を超える。秋田県の新規感染者数が299人となり、最多となる。
- 3/2：秋田県の累計感染者数が10000人を超えて1065人となる。
- 3/5：全国の重症者数が1399人となる。1400人を切るのは2/14の1393人以来。最高は2/25の1503人であった。
- 3/7：秋田県の累計感染者数が11038人となる。
- 3/8：全国の1日の新規感染者の週平均が60000人を切って59347人となる。
- 3/11：全国の重症者数が1252人となる。1300人を切るのは2/8の1141人以来。
- 3/12：秋田県の累計感染者数が12126人となる。
- 3/13：全国の重症者数が1175人となる。1200人を切るのは2/10の1270人以来。
- 3/14：ワクチンの3回目接種の全人口に占める割合が職域接種も含めて30%を超える。
- 3/16：午後11時34分ごろと36分ごろの2回、宮城県と福島県で震度6強の揺れを観測する地震が発生。東北新幹線で東京発仙台行きのやまびこが白石蔵王駅から東京方面に2キロ手前で、緊急停車し17両中16両が脱線。けが人はなし。

*** 一部不明・不正確な箇所があります**

- 3/17：全国の重症者数が1090人となる。1100人を切るのは2/5の1099人以来。秋田県の累計感染者数が13135人となる。
- 政府は東京や大阪、愛知など18都道府県に適用されている新型コロナ対策のまん延防止等重点措置について、3/21の期限で解除を決定。重点措置は1/8以来およそ2か月半ぶりに適用地域がなくなる。
- 3/18：全国の重症者数が991人となる。1000人を切るのは2/3の911人以来。
- 3/19：全国の1日の新規感染者の週平均が50000人を切って48513人となる。
- 3/23：全国の1日の新規感染者の週平均が40000人を切って39442人となる。秋田県の累計感染者数が14256人となる。
- 3/24：全国の重症者数が891人となる。900人を切るのは2/2の886人以来。
- 3/25：全国の重症者数が733人となる。800人を切るのは1/31の783人以来。
- 3/26：秋田県の累計感染者数が15038人となる。
- 3/29：全国の1日の新規感染者の週平均が40000人を超えて43350人となる。底は3/25の38671人。秋田県の1日の新規感染者数が325人となり、最多となる。
- 3/30：ワクチンの3回目接種の全人口に占める割合が職域接種も含めて40%を超える。秋田県の累計感染者数が16049人となる。

【秋田大学】

- 3/12：後期日程を実施。
- 3/22：卒業式を挙行。

【学部・研究科】

- 3/2：地域連携懇談会フォーラム、技術部研修会を開催。
- 3/9：学部FD・SD開催
- 3/25：附属学校地域協働協議会を書面で開催。

【附属学校園】

- 3/8：附属特別支援学校卒業式を挙行。
- 3/10：附属幼稚園卒園式、附属中学校卒業式を挙行。
- 3/15：附属小学校卒業式を挙行。

2022年度主な役職者等の紹介

◎執行部

学部長・研究科長 上田晴彦
 副学部長（教育・教員養成・財務・施設担当） 宇野 力
 副学部長（研究・地域連携・点検評価・広報担当） 大橋純一
 教職高度化センター長 鎌田 信
 附属学校園代表（附属学校園担当） 外池 智
 学部長補佐（特命担当） 林 正彦
 学部長補佐（教員養成・附属担当） 細川和仁
 学部長補佐（学生・FD・地域連携担当） 和泉 浩
 学部長補佐（広報・キャリア・国際交流担当） 辻野稔哉
 学部長補佐（教職大学院担当） 佐藤修司
 事務長 川辺朋矢

◎課程・学科・専攻・コース等

学校教育課程主任 石井照久
 教育実践コース主任 三戸範之
 英語教育コース主任 平良一史
 理数教育コース主任 大内将也
 特別支援教育コース主任 谷村佳則
 こども発達コース主任 保坂和貴
 地域文化学科主任 林 武司
 地域社会コース主任 石沢真貴
 心理実践コース主任 木村久仁子
 国際文化コース主任 羽田朝子
 教職実践専攻長 佐藤修司
 学校マネジメントコース長 佐藤修司
 カリキュラム・授業開発コース長 田仲誠祐
 発達教育・特別支援教育コース長 藤井慶博
 心理教育実践専攻長・コース長 中野良樹

◎各種委員会等

学部運営会議長 上田晴彦
 教育企画会議長 宇野 力
 学術研究推進会議長 大橋純一
 FD推進委員長 和泉 浩
 入学試験委員長 臼木智昭
 教務学生委員長 和泉 浩
 学務委員長 辻野稔哉
 キャリア委員長 林 良雄
 教員養成委員長 宇野 力
 教職入門実施委員長 細川和仁
 教育実地研究実施委員長 石井照久
 教育実習実施委員長 林 正彦

介護等体験実施委員長
 教職実践科目実施委員長
 保育士養成実施委員長
 地域連携委員長
 地域文化コアカリキュラム委員長
 国際交流委員長
 留学生委員長 HORTON WILLIAM BRADLEY
 広報委員長
 点検・評価委員長
 学生協議会議長
 学生支援基金運営委員長
 財務委員長
 施設利用計画検討委員長
 安全管理委員長
 情報システム管理委員長
 人事委員長
 人権倫理委員長

前原和明
 加藤慎一
 瀬尾知子
 大橋純一
 中野良樹
 辻野稔哉
 大橋純一
 大橋純一
 和泉 浩
 和泉 浩
 宇野 力
 宇野 力
 宇野 力
 佐々木重雄
 上田晴彦
 上田晴彦

◎附属関係

附属幼稚園長
 附属小学校長
 附属中学校長
 附属特別支援学校長
 附属学校地域協働協議会議長
 附属学校運営会議長
 附属学校経営委員長
 附属学校学部共同委員長
 附属学校勤務改善委員長
 附属学校研究・研修委員長
 附属学校情報化推進委員長
 附属学校子どもの人権委員長

山名裕子
 外池 智
 星 宏人
 藤井慶博
 上田晴彦
 上田晴彦
 外池 智
 山名裕子
 藤井慶博
 外池 智
 星 宏人
 林 正彦

◎大学本部（本学部関係）

教職課程・キャリア支援センター副センター長

学長補佐（地域協働担当）
 学長補佐（男女共同参画担当）
 ハラスメント相談員

学生相談所専門相談員
 学生相談所相談員

上田晴彦
 臼木智昭
 山名裕子
 谷村佳則
 長谷川章
 小野寺倫子
 佐々木千佳
 未 定
 石井照久
 佐々木千佳
 中尾信一
 瀬尾知子

学部長・研究科長退任のあいさつ

2018～2021 年度の 4 年間にわたって学部長・研究科長の職をさほどの大過なく務めることができました。無事に 4 年間を全うできたのは、学部・研究科・附属学校園のすべての教職員の方々のご協力と、学生・院生のみなさんに恵まれたことによるものと深く感謝しています。ことに、執行部のみなさん、事務のみなさんにはいろいろな面で助けていただきました。

私がやったことで、何か誇れることがあるとすれば、学部・研究科通信を 4 年間出し続け、4 月号まで入れて 49 号、2020 年度前半の臨時号を入れて 50 号出し続けたことでしょうか。私にとっては学級通信のようなもので、好き勝手なことを書かせていただき、教職員の方々、学生・院生の投稿などを楽しく編集させてもらいました。

その他で言うと、2019 年度の教職大学院の認証評価、2020 年度の全学の認証評価のこともありますが、大きく印象に残っていることの第一はやはり新型コロナの感染拡大です。丸々 2 年と 3 か月ほどは強弱を繰り返しながらも厳しい規制の中に置かれ、一方でオンライン授業の普及、GIGA スクールのようにデジタル化が一挙に進みました。対面での交流、懇親会、情報交換会が制限され、県外移動も制限され、人間関係の面でも、教育・研究面でも様々な大きな困難に見舞われました。個人的には居酒屋に行く機会が大きく制限されたことが残念至極でした。

第二は、各種の大学ランキング、何よりも運営費交付金の共通指標による配分の影響の大きさです。研究力の向上が強く求められ、教員評価、選考基準、科研費等の外部資金など、本学部、文系や教

前教育文化学部長・教育学研究科長 佐藤修司
員養成系にとっては極めて厳しい立場に置かれました。この状況を何とかして乗り切りたいところです。

第三は学部改組です。タスクフォースを設定しての検討はだいぶ前から取り組んでいましたが、データサイエンス系の新学部設置に向けた動きが加速したこの一年は、本学部の今後について考える機会となりました。文部科学省とのからみもあって、どのような改組になるかは見通せませんが、学生・院生にとっても、教職員の皆さんにとっても意味のある改組にしたいところです。

いずれも、道半ばで上田次期学部長に引き継ぐことになりますが、どんな困難、ピンチも学びの機会、成長の機会ととらえ、学部・研究科の教職員、学生・院生がワンチームとして取り組むことができれば、必ずや未来は拓けるものと確信しております。

本当に 4 年間ありがとうございました。



BS プレミアムで放送されている「ダークサイドミステリー」で 4 月 14 日木曜 21:00～（再放送 19 日火曜 23:45～）に、對島達雄先生（本学部名誉教授、元副学長・学部長）が出演され、ご著書の『ヒトラーに抵抗した人々 反ナチ市民の勇気とは何か』（中公新書 2015）に関わる話を取り上げられます。ぜひご覧下さい。放送日時は変更の可能性があります。

<https://www.nhk.jp/p/darkside/ts/4847XJM6K8/>

発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科 HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910 年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。